

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	株式会社クオリス
園名	クオリスキッズ小石川保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音を創ろう！

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然音・楽器の音色などの音遊びを続けてきた中で子ども達の音に対する興味が膨らんできた様子を見て、今回、子ども達が主体的に音を創り出す事を友だち一緒に楽しみながら行えたら発想力と協調性の両面が磨かれるのではないかと考えた。

2. 活動スケジュール

- ①保育者が用意した様々な材料を子ども達が叩いたりすることで音を確認する
- ②素材と身近な玩具を組み合わせて、音が生まれることを体感する
- ③ピタゴラスイッチのような手作りの玩具を作るには②をどう発展させたら出来るか保育者と一緒に試行錯誤する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

板・カスタネット・鈴・木製車の玩具・プラスチックの玉・様々な空き箱・大小段ボール・筒・ガムテープ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

普段から子ども達が好きなピタゴラスイッチの話をして、子ども達の創作意欲を高める。段ボールや空き箱に触れて音を鳴らしてみる。準備した様々な玩具を掛け合わせて音が鳴る事を見せる。(例：段ボールに傾斜をつけ車を走らせ、勢い良く走ることで床に音が響くなど) 保育者や友だちと対話をしながら、どうすれば色々な音生まれるのか、“考えることそのもの”を楽しむ。

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

保育者 (段ボールを叩きながら)

「ポンポン音が鳴るのは鬼さん退治の時にみんなでやったよね」

「今日は色々な組み合わせで新しい音が作れるか、試してみよう」 (様々な素材や玩具を広げて保育者が試しに傾斜をつけた板の上に段ボールを重ねて木製車を走らせてみる)

子ども達 (板の上に車を走らせながら) 「曲がっちゃう!」「進まない!」

子ども A 「もっと斜めにしてみよう～」

子ども B (筒を出して板に乗せながら) 「この中に走らせよう!」

保育者 「楽器もあるよ～」 (音の掛け合わせを誘う)

子ども達 「この箱に鈴を入れよう～」 「タンバリン置いてみよう～」

車が滑り降りてきた際に楽器に当たり、音が鳴ることを試す。

保育者と一緒に車が通る道を作り、ゴール地点に玩具が入った箱を置くと音が鳴らせることを考えつく。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回「身の回りの自然音に気付く」「楽器の音色を楽しむ」「自分たちで音を創る」という毎回、テーマに沿って連続した活動をすることで、「この前はこうだった、だからこうしよう」等と子ども達自らが考えて行動する姿を見ることができた。保育者は日々、テーマやねらいをもって保育に当たる重要性を再確認する機会にもなった。

子ども達の「知りたい!」「もっとやってみたい!」の気持ちを育み、小さな好奇心を大きなワクワクに変えて子どもたちがスクスクと成長していける環境を作っていきたいと改めて思った。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ小石川保育園
施設所在地	東京都文京区小石川2-2-6
法人名	株式会社クオリス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

活動のテーマは「数字と図形」。これまでの保育では、遊びの中での基礎的な知識に親しむことが一般的であり、思考力の育成が不足しているという課題があったと考えている。また、幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿にも「思考力」があるように、幼児教育では将来自ら考えて行動するための基礎となる思考力を育む機会を提供することも重要だと考える。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
時代なのか小学校受験を検討している家庭が数割いたり、公文式やそろばんなど、算数系の塾に通っている園児が多く在籍している。それら園児は、トランプやレゴなど数字や図形に興味関心が高く、優しい問題ではすぐに飽きてしまい、難しい取り組みにチャレンジしたいという欲求が強い。

2. 活動スケジュール

思考力とは、経験や知識をもとにあれこれと頭を働かせられる人（筋道立てて考える力が高い人）のこと。そのような人物になるには継続的に取り組むことが重要だと考え、毎週1回実施することをスケジュールに組み込んだ。1回の実施時間は約45分。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
「覚える」ことより「考える」ことを中心とした思考学習ができる環境を整えるため、図形プレート、ひもとおし、ブロックなどの道具や、視覚的アプローチもできるように映像も用意。遊びながら粘り強く考える環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・クラスごとに同じ映像を15分視聴：算数的思考力の土台となる量感と空間認識を視覚的なアプローチを通じて、数や図形の概念を遊びながら理解をしていく。
- ・個々にテキストを30分実施：個々に理解力、興味関心の度合いなどは異なるので、テキストは自分のペースで取り組めるように設定。各々が楽しめるよう、少しずつ取り組む難易度を高めながら実施していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

適宜活動を撮影。その写真・映像を保育士同士で見ながら、子どもたちがそれぞれに何に関心を持ち、どのようなアイデアを持っていたかを共有し合う。実施したテキストはお迎え時に随時保護者に共有し、子どもの成長を共に確認し合う。また、活動の見学会も時折実施し、保護者に生の様子を観てもらおうことにしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・1回45分というのは園児には少し長い時間であるが、継続的に取り組むことで、座った状態で集中して取り組むことに慣れるという副次的効果も得られた。
- ・外部から講師を招くのではなく、子供たちの普段の様子を良く知る担任が実施することにより、一人ひとりに合った活動となっている。
- ・幼児教育がしっかりしている保育園であると、ママ友ネットワークで広がっていることを保護者から伺った。
- ・この取り組みにより、職員が幼児教育に関心を持つようになったことが大きな発